図書だより

２０２４年２月号

寒い日が続きますね。あたたかい図書館で本を読んでいきませんか。
図書館は勉強するにもいい場所です。テスト前の勉強にどうぞ利用してください。いろいろな勉強法の本もそろっています。自分に合う勉強法を見つけてみましょう。
３年生は受験の本番を控えている人も多いですね。実力が発揮でき、よい道が開けるよう応援しています。

図書委員会　企画

★鬼は外！福は内！図書館で鬼退治

図書館の中に、鬼が１５匹、さあ、みんなで鬼退治をしよう！

期間：２月１日（木）～２９日（木）

本を借りると怖い鬼を攻撃できます。鬼は赤、青、緑、黄、黒。
鬼によって体力が違いますが、ラスボスはHP１５０。
本を１冊借りると５ダメージを与えられます。学年ごとに５匹の鬼を退治しよう。

★3年生　最終貸出

２月２６日（月）

下福田中の図書館の本が読めるのもあとわずかですね。受験から解放されたら卒業までにぜひ、本を楽しんでくださいね。

★古雑誌配布のお知らせ

２０２３年８月号までの古雑誌を希望者に配布します。

●期　間：２月１日（木）～２９日（木）

●対　象：期間中、本を１冊以上借りた人

●冊　数：期間を通して　ひとり１冊まで

（日程の後半、雑誌の残り具合によって変更の可能性もあります）

★図書館からおすすめ　～犬塚先生から～

小　説

「ミッドナイト・ライブラリー」

死ぬにはいいタイミングだ、そう決意していた。

両手に溢れかえらんばかりの「後悔」を抱えてノーラは死んだ。思い通りにならなかった、周囲を失望させてばかりの人生にグッバイしたのだ。アルコールと薬の過剰摂取によって。客観的に見ても主観的に見ても事故ではなく「自殺」。だが、死んだはずのノーラは、真夜中の図書館にいた。

人生をやり直す話はいっぱいある。この物語でも、主人公ノーラは、彼女があり得たであろう人生をいきなおす。たとえば、恋人の夢をかなえ、二人でささやかな店を経営する人生。かなった夢は、二人の幸せにはつながらず、この人生は生きる価値がないとノーラは思う。思ったとたん、真夜中の図書館に戻ってしまう。ノーラの人生は、１冊ずつ本にまとめられ、図書館に保管されているのだ。本を開くたび、新たな人生がノーラを迎える。水泳のオリンピック選手になり、本の執筆、講演活動に引っ張りだこになる有名人の人生。あるいは、世界一の歌姫となり、コンサートで世界をめぐり熱狂の渦を起こす人生。こんな華やかな人生のさなかでも、ふと手首を見ればリスカの跡。バッグには最新の抗うつ剤が入っている。幸せな人生なんかじゃない。では、平凡なら、ささやかな幸せを掴めるのか…。何回も何百回も生きなおす中で、やっとノーラは気づく。私は死ぬ準備なんてちっともできてない。まだ生きていたいのだ、と。自分が生きることが、ほかの人の人生を生かすことにも、つながっているのだと。

マット・ヘイグ/
ハーパーコリンズジャパン
（933 ヘ）

～司書から～

自然科学

「動物たちは何をしゃべっているのか」

動物の言葉がわかったら、おもしろいと思いませんか？

著者の鈴木俊貴さんは、小鳥のシジュウカラは、ただ鳴いているのではなく言葉をもち、会話したり、時にはウソをついたりすることを突き止めて、東京大学に世界初の「動物言語学科」を開いた方です。その鈴木さんが山極寿一さんと対談します。山極さんも森でゴリラと暮らして研究をしてきた、ゴリラ研究の第一人者です。

鳥には紫外線が見え、GPS のように地球の磁気がわかるそうです。ふたりとも、鳥やゴリラを人間より下等な生き物とみなすのではなく、人間には計り知れない感覚や能力を備えた生き物として捉え、それぞれがどんな世界を見ているかを明らかにしようとしています。

ふたりで対話しながら、動物たちの言葉や心はどうなっているのか、人にとって言葉とはどういうものかを考えていきます。

山極寿一・
鈴木俊貴/
集英社